

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2021年 第Ⅱ・四半期(4～6月) VOL. 101

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 今後、取り組まないといけない関心事・経営課題について	1 2
4. インボイス制度について	1 4
5. 貴社の関心事・経営課題、インボイス制度を含めた自由回答	1 5

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2021年6月実施）の調査で100回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が20.5%、非製造業が19.1%、全体では20.0%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	162	37	22.8%
機械器具	186	36	19.4%
その他の製造業	302	60	19.9%
製造業計	650	133	20.5%
建設業	110	23	20.9%
卸売業	61	13	21.3%
小売業	44	5	11.4%
サービス業	135	26	19.3%
非製造業計	350	67	19.1%
合計	1,000	200	20.0%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	364	57	15.7%	238	41	17.2%	602	98	16.3%
20～49人	187	50	26.7%	77	19	24.7%	264	69	26.1%
50～99人	59	16	27.1%	18	6	33.3%	77	22	28.6%
100～299人	33	8	24.2%	12	1	8.3%	45	9	20.0%
300人以上	7	2	28.6%	5	0	0.0%	12	2	16.7%
合計	650	133	20.5%	350	67	19.1%	1,000	200	20.0%

【調査結果の総括】

～非製造業の落ち込み大きく、回復傾向から停滞傾向へ～

4～6月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で▲12 と、前回調査から2ポイント悪化し、D I水準は前回までの改善傾向から反転した（2021年3月=▲10→2021年6月=▲12）。業種別にみると、製造業のD Iは▲8となり、前回調査から3ポイント改善した（3月=▲11→6月=▲8）。非製造業のD Iは▲20となり、前回調査から▲13ポイント悪化した（3月=▲7→6月=▲20）。

4月に3回目となる緊急事態宣言が発出され、経済活動が抑制された状況が続き、個人向けサービスが厳しいままでの推移となったが、海外経済の回復傾向や世界的な半導体不足によって関連産業は高水準に推移した。しかし、燃料価格の高騰や半導体不足に伴う一部工場の稼働停止等のマイナス要因もあって、業界による企業格差がみられ、景況は「K字型」での推移傾向が強まった。

今後は、緊急事態宣言の解除やワクチン接種の普及などの影響で低迷していた個人向けサービスも回復の兆しが見込まれるが、燃料・原材料価格の高騰や木材、鉄鋼などの材料不足などマイナス要因も引き続き影響を及ぼすものとみられ、慎重な業況判断が求められる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2020年7～9月期		2020年10～12月期		2021年1～3月期		今回 2021年4～6月期		天気図 前回比較
全産業		▲ 37		▲ 25		▲ 10		▲ 12	
製造業		▲ 47		▲ 26		▲ 11		▲ 8	
金属製品		▲ 53		▲ 22		▲ 5		10	
機械器具		▲ 53		▲ 34		▲ 4		▲ 7	
その他の製造業		▲ 41		▲ 25		▲ 21		▲ 19	
非製造業		▲ 18		▲ 20		▲ 7		▲ 20	
建設業		▲ 13		▲ 21		▲ 5		▲ 22	
卸売業		▲ 27		▲ 40		▲ 8		▲ 33	
小売業		▲ 8		40		0		▲ 25	
サービス業		▲ 26		▲ 25		▲ 10		▲ 10	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ ☀、0～9は薄日 ☁、▲10～▲11は曇り ☁、▲20～▲11は小雨 🌧、▲21以下は雨 🌧とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、➡が好転、➡が横ばい、➡が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²（2021 年 6 月調査）における全国および近畿の業況判断D I（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国では前回調査より 5 ポイント、近畿では 4 ポイントの改善となり、景気の業況判断D I は前回に引き続き改善した。八尾市においては、製造業では前回に続いて改善となったが非製造業のD I 値が悪化し、結果として全産業のD I 値が悪化。全国、近畿とは異なる動きとなった。（図 2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

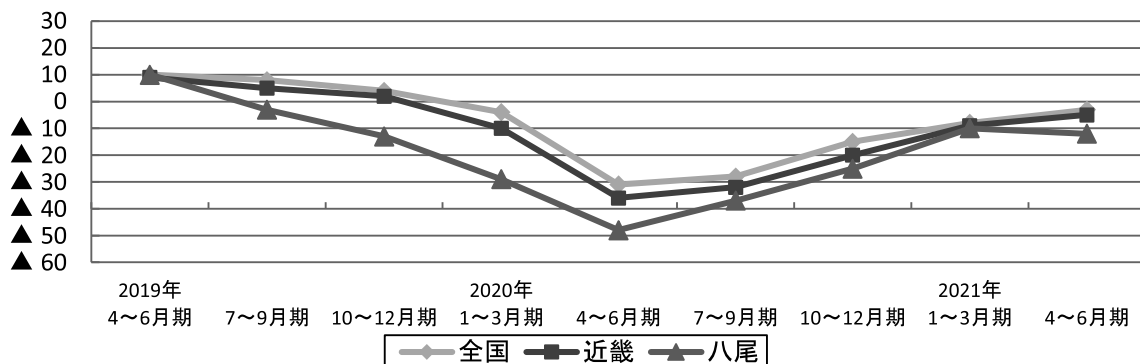


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

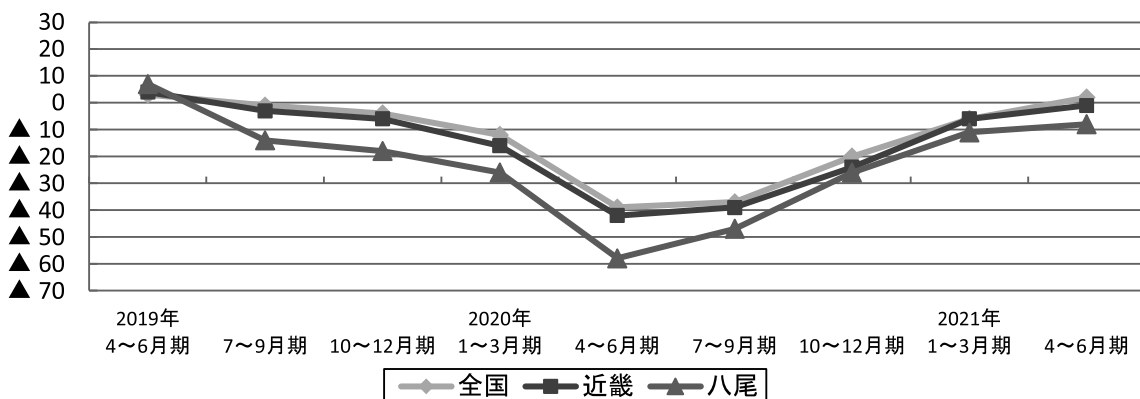
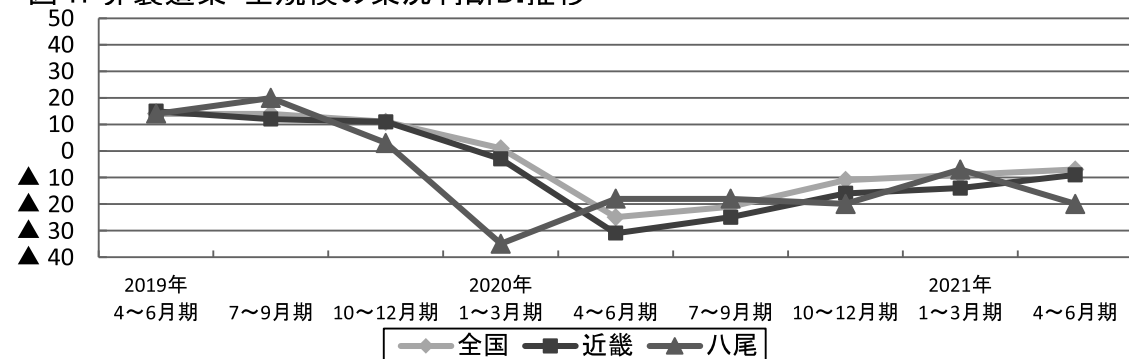


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると(図5～6)、製造業の「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」全てにおいて前期から継続して良化し、「生産額」はマイナスからプラスに転じ、「製品販売価格」もプラス基調で推移している。また、非製造業においては製造業と同様に「売上額」、「販売先数・客数」、「設備投資額」の全てにおいて良化したが、3指標ともマイナス領域のため製造業と乖離のある結果となった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

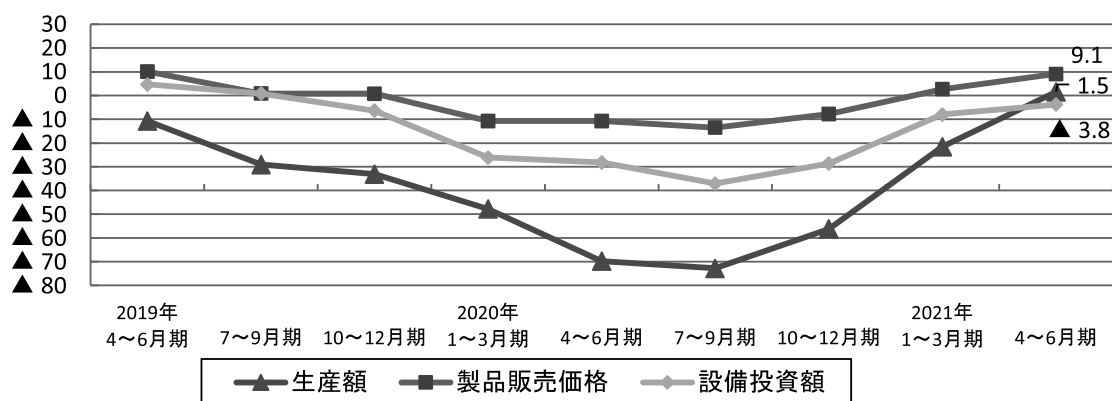
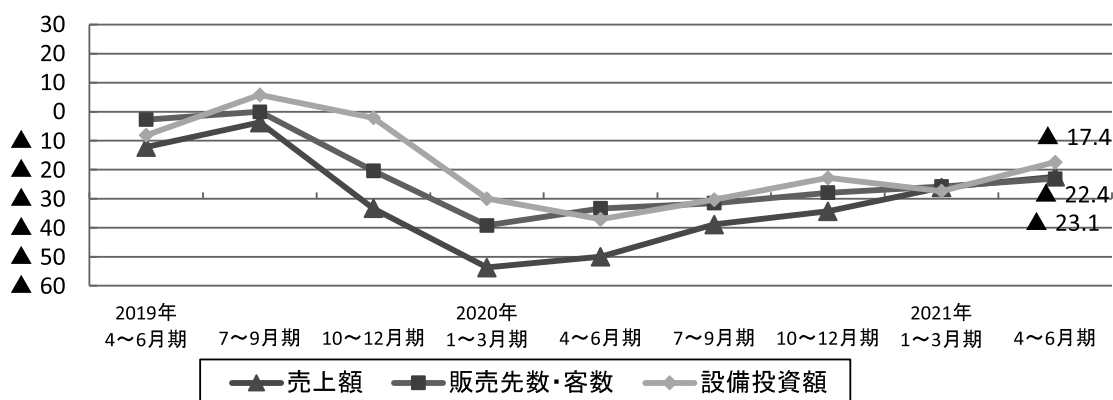


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)

⇒

(今回)

曇り



【生産額】

製造業の2021年4～6月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲9.8（▲はマイナスを表す、以下同様）と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲13.8→前回▲11.2→今回▲9.8）。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	37	32.4	35.1	32.4	0.0	4.5
	機械器具	36	13.9	55.6	30.6	▲ 16.7	▲ 6.1
	その他の製造業	60	26.7	35.0	38.3	▲ 11.6	▲ 26.7
	製造業計	133	24.8	40.6	34.6	▲ 9.8	▲ 11.2

前年同期と比べた生産額D Iでは、1.5 とマイナス（減少超）からプラス（増加超）に転じた（前々回▲56.2→前回▲21.6→今回1.5）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	37	51.4	16.2	32.4	19.0	▲ 2.3
	機械器具	36	25.0	44.4	30.6	▲ 5.6	▲ 20.4
	その他の製造業	60	33.3	28.3	38.3	▲ 5.0	▲ 36.6
	製造業計	133	36.1	29.3	34.6	1.5	▲ 21.6

【出荷額】

4～6月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲10.5 と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲14.6→前回▲13.8→今回▲10.5）。業種別内訳をみると、その他の製造業でマイナス幅が縮小したが、金属製品、機械器具でD I 値が±0 からマイナスヘシフトとなった。

表5. 出荷額

業種		当期出荷額は前期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	37	32.4	32.4	35.1	▲ 2.7	0.0
	機械器具	36	16.7	55.6	27.8	▲ 11.1	0.0
	その他の製造業	60	25.0	35.0	40.0	▲ 15.0	▲ 35.5
	製造業計	133	24.8	39.8	35.3	▲ 10.5	▲ 13.8

【製品在庫】

4～6月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲1.5 と、マイナス（過剰超）幅は縮小した（前々回▲14.9→前回▲8.6→今回▲1.5）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナス幅が縮小し、その他の製造業ではマイナスからプラス（不足超）へ転じた。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	37	5.4	86.5	8.1	▲ 2.7	▲ 4.7
機械器具	36	5.6	83.3	11.1	▲ 5.5	▲ 6.2
その他の製造業	60	11.7	78.3	10.0	1.7	▲ 13.5
製造業計	133	8.3	82.0	9.8	▲ 1.5	▲ 8.6

【原材料仕入価格】

4～6月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は66.7 と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回26.3→前回53.0→今回66.7）。業種別内訳をみると、すべての業種でプラス幅が拡大し、原材料仕入価格が値下がりしたとの回答はすべての業種で0であった。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	37	78.4	21.6	0.0	78.4	59.1
機械器具	35	68.6	31.4	0.0	68.6	54.2
その他の製造業	60	58.3	41.7	0.0	58.3	47.5
製造業計	132	66.7	33.3	0.0	66.7	53.0

【製品販売価格】

4～6月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は11.4 と、プラス（値上超）幅は拡大した（前々回▲3.6→前回3.3→今回11.4）。業種別内訳をみると、すべての業種でプラス幅が拡大しているが、特に金属製品の変動が大きくなっている。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	37	24.3	75.7	0.0	24.3	9.1
機械器具	36	11.1	80.6	8.3	2.8	0.0
その他の製造業	59	11.9	84.7	3.4	8.5	1.7
製造業計	132	15.2	81.1	3.8	11.4	3.3

前年同期と比較した製品販売価格D Iにおいても9.1と、プラス（値上超）幅が拡大した（前々回▲7.8→前回2.7→今回9.1）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	37	32.4	64.9	2.7	29.7	6.9
機械器具	36	5.6	86.1	8.3	▲2.7	▲2.0
その他の製造業	59	11.9	79.7	8.5	3.4	3.4
製造業計	132	15.9	77.3	6.8	9.1	2.7

【 採 算 状 況 】

4～6月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲25.8と、マイナス（悪化超）域で横ばいとなった（前々回▲26.6→前回▲25.7→今回▲25.8）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナス幅が縮小したが、その他の製造業でマイナス幅が拡大した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	13.5	54.1	32.4	▲18.9	▲25.0
機械器具	36	8.3	66.7	25.0	▲16.7	▲18.4
その他の製造業	59	5.1	54.2	40.7	▲35.6	▲32.2
製造業計	132	8.3	57.6	34.1	▲25.8	▲25.7

【 資 金 繰 り 】

4～6月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲10.5と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲11.8→前回▲12.5→今回▲10.5）。業種別内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が縮小、特に金属製品では±0までシフトしている。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	13.5	73.0	13.5	0.0	▲6.8
機械器具	36	0.0	88.9	11.1	▲11.1	▲12.2
その他の製造業	60	5.0	73.3	21.7	▲16.7	▲16.9
製造業計	133	6.0	77.4	16.5	▲10.5	▲12.5

【受注状況】

4～6月期の受注状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲11.3と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲20.2→前回▲16.5→今回▲11.3）。業種別内訳をみると、機械器具でマイナス幅が拡大した。金属製品、その他の業種でマイナス幅が縮小し、特に金属製品ではプラス（好転超）に転じている。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	32.4	37.8	29.7	2.7	▲ 11.3
機械器具	36	13.9	61.1	25.0	▲ 11.1	▲ 4.1
その他の製造業	60	13.3	53.3	33.3	▲ 20.0	▲ 30.5
製造業計	133	18.8	51.1	30.1	▲ 11.3	▲ 16.5

【設備投資額】

4～6月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲3.8と、マイナス（減少超）幅は縮小した（前々回▲28.6→前回▲8.0→今回▲3.8）。業種別内訳をみると、金属製品では±0からプラス（増加超）にシフトし、機械器具でマイナス幅が縮小したが、その他の製造業でマイナス幅が拡大している。

表13.設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	37	37.8	48.6	13.5	24.3	0.0
機械器具	36	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	▲ 12.5
その他の製造業	59	11.9	59.3	28.8	▲ 16.9	▲ 10.1
製造業計	132	18.9	58.3	22.7	▲ 3.8	▲ 8.0

【向こう3カ月の景況】

4～6月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」－「悪化」）は▲17.4と、マイナス（悪化超）幅は拡大した（前々回▲24.5→前回▲15.9→今回▲17.4）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が縮小したが、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が拡大している。

表14.向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	16.2	62.2	21.6	▲ 5.4	▲ 18.6
機械器具	36	19.4	44.4	36.1	▲ 16.7	▲ 14.3
その他の製造業	59	13.6	47.5	39.0	▲ 25.4	▲ 15.2
製造業計	132	15.9	50.8	33.3	▲ 17.4	▲ 15.9

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

小雨



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



4～6月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額のマイナス（減少超）幅が前回より縮小した。資材仕入単価と労務費以外はすべてマイナス領域での推移となっている。工事引合件数のマイナス（減少超）幅が拡大したが、資材仕入価格のプラス（値上超）幅は縮小、受注単価、受注状況、向こう3ヵ月の景況の3指標でもマイナス（値下超・減少超・悪化超）幅が縮小した。建設業の景気動向としては前回よりやや改善の傾向がみられる。

前年同期比DIをみると、売上額でマイナス幅がやや拡大したもの、売上額、受注状況のマイナス幅は縮小している。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	23	17.4	39.1	43.5	▲ 26.1	▲ 33.4
	資材仕入価格	23	34.8	56.5	8.7	26.1	56.5
	労務費	23	13.0	87.0	0.0	13.0	13.0
	工事引合件数	23	13.0	39.1	47.8	▲ 34.8	▲ 8.7
	受注単価	23	4.3	73.9	21.7	▲ 17.4	▲ 39.2
	採算状況	23	8.7	52.2	39.1	▲ 30.4	▲ 30.4
	資金繰り	23	8.7	69.6	21.7	▲ 13.0	▲ 13.1
	受注状況	23	21.7	39.1	39.1	▲ 17.4	▲ 21.7
	向こう3ヵ月の景況	23	8.7	56.5	34.8	▲ 26.1	▲ 52.2
前年 同期比	売上額	23	30.4	17.4	52.2	▲ 21.8	▲ 20.8
	受注状況	22	22.7	31.8	45.5	▲ 22.8	▲ 39.1
	設備投資額	21	14.3	47.6	38.1	▲ 23.8	▲ 40.9

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



4～6月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回からマイナス（減少超）幅がかなり拡大した。販売先数・客数、商品在庫はマイナス（減少超・過剰超）幅が縮小したものの、商品仕入価格はプラス（値上超）幅が拡大、粗利益率のマイナス（悪化超）幅も拡大となり、卸売業の景気動向は前回から悪化した。向こう3ヵ月の景況もマイナス（悪化超）幅がかなり拡大しており、警戒感が拭えない状況となっている。

前年同期とのD I の比較でみると、売上額は再びプラス（増加超）からマイナス（減少超）へ転じたが、販売先数・客数、設備投資額のマイナス（減少超）幅が縮小している。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	13	15.4	46.2	38.5	▲ 23.1	▲ 7.1
	販売先数・客数	13	0.0	92.3	7.7	▲ 7.7	▲ 14.3
	客単価	13	15.4	53.8	30.8	▲ 15.4	▲ 14.3
	商品仕入価格	13	53.8	46.2	0.0	53.8	35.7
	商品在庫	12	8.3	75.0	16.7	▲ 8.4	▲ 21.4
	商品販売価格	13	23.1	69.2	7.7	15.4	0.0
	採算状況	13	7.7	69.2	23.1	▲ 15.4	▲ 14.3
	資金繰り	13	7.7	84.6	7.7	0.0	7.1
	粗利益率	13	7.7	53.8	38.5	▲ 30.8	▲ 7.2
	向こう3ヵ月の景況	13	0.0	53.8	46.2	▲ 46.2	▲ 14.3
前年比	売上額	13	23.1	30.8	46.2	▲ 23.1	7.2
	販売先数・客数	13	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	▲ 14.3
	設備投資額	13	15.4	61.5	23.1	▲ 7.7	▲ 28.6

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



4～6月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額は前回よりマイナス（減少超）幅が縮小した。販売先数・客数はマイナス（減少超）幅も縮小、客単価、商品販売価格、資金繰りではマイナス（減少超・悪化超）から±0へシフトした。小売業の景気動向は、前回よりマイナス幅は縮小されたが、厳しい状況は続いている。

前年同期との比較では、売上額は前回と変化なくマイナス（減少超）で推移、販売先数・客数はマイナス（減少超）幅が縮小、設備投資額では（減少超）幅は拡大した。

表17.小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	5	20.0	0.0	80.0	▲ 60.0	▲ 100.0
	販売先数・客数	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 100.0
	客単価	5	20.0	60.0	20.0	0.0	▲ 20.0
	商品仕入価格	5	40.0	60.0	0.0	40.0	60.0
	商品在庫	5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	商品販売価格	5	0.0	100.0	0.0	0.0	▲ 20.0
	採算状況	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 20.0
	資金繰り	5	40.0	20.0	40.0	0.0	▲ 20.0
	粗利益率	5	60.0	0.0	40.0	20.0	0.0
	向こう3ヵ月の景況	5	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0
前年同期比	売上額	5	20.0	0.0	80.0	▲ 60.0	▲ 60.0
	販売先数・客数	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 50.0
	設備投資額	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲ 25.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

曇り



4～6月期の状況を各種DI（前期比）でみると、売上額は前回からマイナス（減少超）幅が縮小した。客数は±0からマイナス（減少超）にシフトしたが、採算状況、資金繰り、粗利益率のマイナス（悪化超）幅が縮小し、向こう3ヵ月の景況においてはマイナス（悪化超）からプラス（良化超）へ転じ、サービス業の景気動向は前回から改善傾向にある。

前年同期との対比では、売上額、設備投資額のマイナス（減少超）幅は縮小したが、客数のマイナス（減少超）幅は拡大している。

表18.サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	26	30.8	30.8	38.5	▲ 7.7	▲ 22.7
	客数	26	19.2	50.0	30.8	▲ 11.6	0.0
	客単価	26	3.8	76.9	19.2	▲ 15.4	▲ 14.3
	採算状況	25	12.0	60.0	28.0	▲ 16.0	▲ 27.3
	資金繰り	26	15.4	65.4	19.2	▲ 3.8	▲ 31.9
	粗利益率	26	15.4	61.5	23.1	▲ 7.7	▲ 41.0
	向こう3ヵ月の景況	26	23.1	57.7	19.2	3.9	▲ 13.6
前年同期比	売上額	26	23.1	38.5	38.5	▲ 15.4	▲ 45.5
	客数	25	16.0	44.0	40.0	▲ 24.0	▲ 14.3
	設備投資額	24	16.7	54.2	29.2	▲ 12.5	▲ 13.6

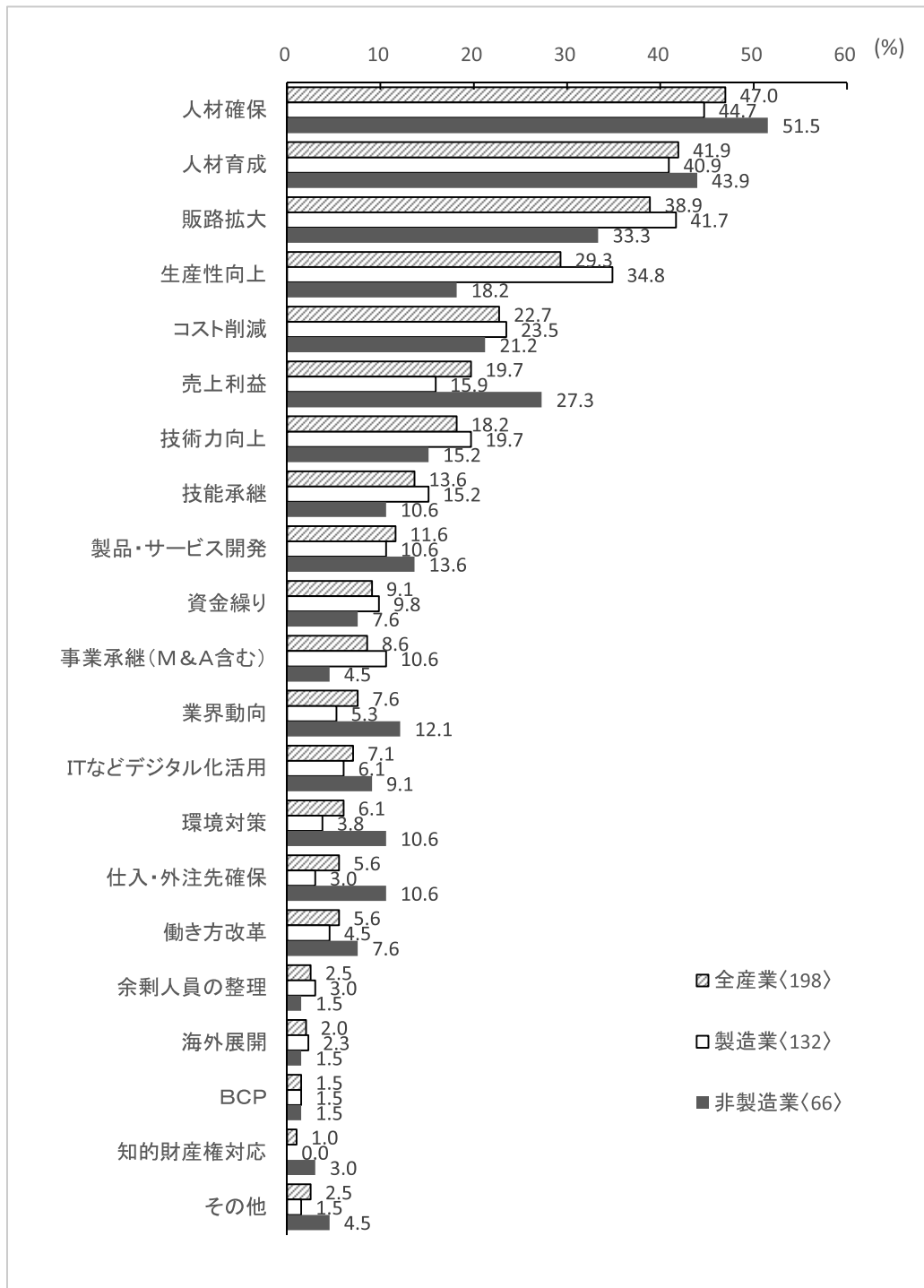
3. 今後、取り組まないといけない関心事・経営課題について

今後、取り組まないといけない関心事・経営課題について

貴社の関心事・経営課題として今後、取り組まないといけないことについて複数回答3つまで可として尋ねたところ、全体（回答事象所数は198）では「人材確保」の割合が47.0%で最も高く、次いで「人材育成」が41.9%、「販路拡大」が38.9%と続いており、人材に関する項目が上位を占める結果となった。

業種別でみると、製造業でも「人材確保」の割合が44.7%で最も高くなった。次いで「販路拡大」が41.7%、「人材育成」が40.9%と続いている。非製造業でも「人材確保」の割合が51.5%で最も高くなり、過半数を超える企業が関心事・経営課題として挙げている。次いで「人材育成」が43.9%、「販路拡大」が33.3%と続いた。製造業、非製造業ともに上位3項目は同じ結果となった（図7）。

図7. 今後、取り組まないといけない関心事・経営課題



(注) 〈 〉 内は回答事業所数。

(注) 回答項目数が多いため、グラフは全産業の回答数降順で表示。

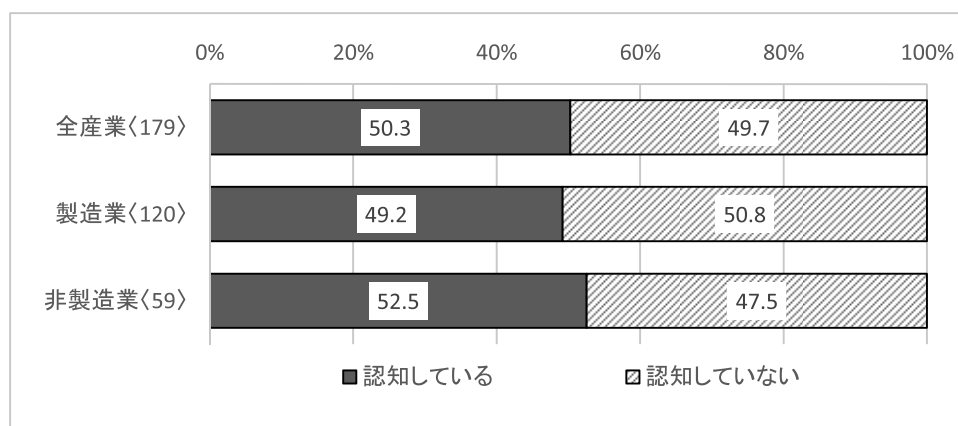
4. インボイス制度について

インボイス制度について

インボイス制度について、その認知度を尋ねたところ、全体（回答事業所数は179）では、「認知している」の割合が50.3%となり、約半数が認知している結果となった。

業種別でみると、製造業では「認知している」の割合が49.2%となり、非製造業では「認知している」の割合が52.5%で、製造業より非製造業の割合が高くなっているが、どちらも半数程度で大きな差異は見られない（図8）。

図8. インボイス制度の認知度



（注）〈 〉内は回答事業所数。

[インボイス制度]

- 売手である登録事業者は、買手である取引相手（課税事業者）から求められたときは、インボイスを交付しなければなりません（また、交付したインボイスの写しを保存しておく必要があります）。
- 買手は仕入税額控除の適用を受けるために、原則として、取引相手（売手）である登録事業者から交付を受けたインボイスの保存（※）等が必要となります。

（※）買手は、自らが作成した仕入明細書等のうち、一定の事項（インボイスに記載が必要な事項）が記載され取引相手の確認を受けたものを保存することで、仕入税額控除の適用を受けることもできます

国税庁ホームページより

5. 貴社の関心事・経営課題、インボイス制度を含めた自由回答

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	人・物の動きが悪いので商品が動かない。特に土産品はめどが立たない。
製造業	A	インボイスの課税事業者ではない事業者の請求書に消費税が含まれていたら、払わなくていいのか？
製造業	A	コロナ収束のめどが立たず、不安定な状況が続くと思う。
製造業	B	現代表72才の国魂の世代。人材が育っていない、若い人が続かない、生産性が悪い。
製造業	B	インボイス制度は早く実施すべき。
製造業	B	少数精英主義で行うには人材育成が重要である。収益向上にはコスト削減が重要である。
製造業	B	まず、良い人材が集まらない。特に若い人達。
製造業	B	D X化を課題として取組んでいる。インボイス制度は専門家に任せる。
製造業	C	人材不足、人の成長が少ない為、技術力向上、生産性改善、コスト削減のスピードが遅い。
製造業	E	財務部門と営業管理で打ち合わせ中。10/1より実施予定（インボイス制度）
建設業	A	現場が減少しているので、その事をチャンスに変え社員の免許等必要な事への時間にする。
建設業	A	仕入が上がってきているので、売上を同じように上げると販売単価に影響するので、なかなか難しくなっている。
建設業	B	経理処理が一段と複雑になる懸念があるのでは。
卸売業	B	インボイス制度は面倒だ。
卸売業	C	インボイス制度開始後、個人事業主など免税事業者との取引がどうなるか気になる。
サービス業	A	自営業者には無理ではないのか

（注1）規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

（注2）コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2021年9月時点でのものである。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 八尾市 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>